2013．5

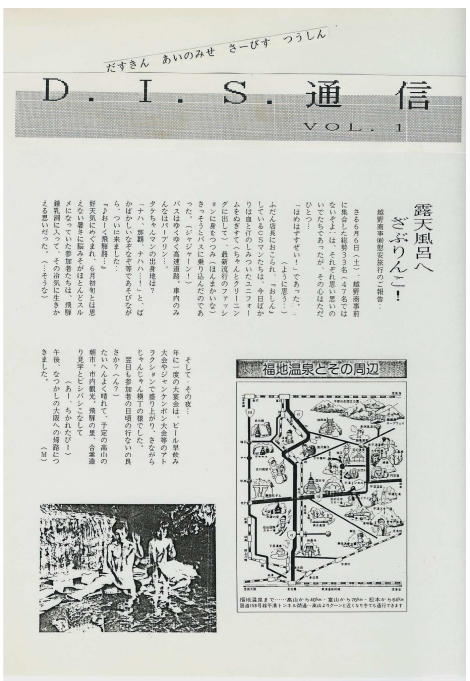
シャトル北大阪通信

通算１００号

㈱ダスキンシャトル北大阪
大阪市都島区都島本通 5-4-22
TEL 06(6921)4645

お陰様で祝１００号！

昭和六十二年七月、シャトル北大阪(当時はDIS大阪)がレンタルをさせていただく加盟店さまにシャトルの様子や現状をお知らせしたいという思いで始めた新聞づくり。当初はモノクロコピーで仕事以外のオチャラケ記事が中心のお恥ずかしい内容でしたが、作っていて楽しかったのを覚えています。その後は中断や発行遅れの時期も多々ありましたが、やっと通算百号を迎えることができました。これも読んでくださる皆様のおかげです。ホントにありがとうございます。



↑第 11 号の原稿

第1号の一面は社員旅行ネタ→

↑第 11 号の一面は「新社長出社！」

モノクロコピーの写真が見づらくて残念…

ダメ元で提案したら、あっさり採用されたというのがきっかけで始まった新聞づくり。当時買ったばかりの自前のドットの粗い安物のワープロを使って文章を作り、イラストや写真は切り貼りしてレイアウト。さらにこれを解像度の悪いモノクロコピーで縮小して仕上げるという原始的な方法。しかも文字の大きさがたいへん小さく、さぞ読みにくかったろうと今さら反省です。ともあれこの新聞を途中から読んでくださるようになった方も多くいらっしゃると思うので、第一号からの思い出を振り返りながら創刊当時を少し紹介したいと思います。

記念すべき第一号は、その年の六月に行った社員旅行や勉強会記事のほか、「今月のＣＳマン」というスタッフを紹介していく現在好評連載中の「旧人類紹介」の前身ともいえるシリーズがスタート。他に第一回ということで当時の越野圭一社長が「あいさつはお釈迦様の教えのひとつ」という、あいさつの大切さや「おはよう」「こんにちは」「さようなら」といったことばの由来を説明するコラムを書いています。ちなみに当時発行は越野商事有限会社となっていました。第二号は前月からＤＩＳ目標会で加盟店さまから承認されたシャトルの販促活動(レンタル中の新規・増加で加盟店さまにお礼金を請求できる)の結果発表。なんと最初の一ヶ月の成果は三十二万九千八百九十円でした。他に安全運転キャンペーンが始まったことの紹介や、スタッフの鈴鹿８時間耐久オートバイレース観戦記などもあり、当時は社内がバイクブームだったことを思い出します。現在、シャトル大阪中央店の若いスタッフには第二期バイクブームが起こりつつあるような…(笑)。

越野運送は60周年
シャトル北大阪35周年

この頃、近隣の加盟店さまに勉強会の講師をお願いしていたことも初期の新聞を読むと分かります。

第三号は販促キャンペーンも三ヶ月が経過し、お客様への声掛けも一巡したので、今度は解約防止に活動の重点を移していくと伝えています。当時あったシャトルの野球チーム「クローバーズ」の活動などが今月のＣＳマンコーナーでスタッフにより紹介され、他のスタッフはプライベートの富士山登頂体験記を載せました。第四号になると慣れてきたせいか(?)その文体にはオチャラケ感が充満し、益々まじめな仕事関連の記事が少なくなっていきましたが、ユーモアの分かる加盟店さまには好評をいただきました。レンタルスタッフに万歩計を着けさせたらどの位の数字が出るのかという実験を六名のスタッフで大マジメに実施。なんと平均は四万七千歩。一歩が四十五センチだとすると、なんと一日のレンタルで二十一キロ強を歩いているという驚異の結果が出たことを紹介していました。第五号からはスタッフの日常をもっと紹介できるようにと増ページ。第六号は創刊以来はじめての年末年始レンタルの時期を迎え、合併号としました。それからも順調におもしろ新聞を続けましたが、昭和六十三年五月発行の第十号で初めて越野圭一社長の訃報という悲しい内容の新聞を書きました。忘れもしない四月二十九日の祝日、当時あった宝塚ファミリーランドに古参のスタッフ数名でレンタルに行き、帰宅した後に電話で知らせを受けました。現在も続くシャトルの販促お礼金請求制度を我々に残してくれた先代の圭一社長に恩返しができたかどうかは分かりませんが、この号で三月の販促額が過去最高の四十一万九千五百円に上ったことを紹介できました。第十一号は現在の泰弘社長の初出社が一面の見出し。その前におこなわれた運送とレンタルサービススタッフの合同親睦研修会で新生越野の結束はガッチリ固まりました。…うん、がっちり！

A3横書きスタイルの35号

カラー増ページの45号

昔からシャトルにはユニークな経歴を持った人が多くいました。上山テルヨシ君もその一人で、彼は中南米を一年間旅した経歴の持ち主。その経験談をぜひ紹介してほしいと頼み込んで、第十二号からシャトル北大阪通信初の長期連載、「ラテンアメリカ(中南米)気ままな一人旅」をスタート。連載途中で彼がまた新たな旅に出てしまい、原稿をＦＡＸで送ってもらいながらメキシコからペルー(第二十六号)まで続きました。それから昭和六十四年(１９８９)一月の第十八号で初めてカラーページを作りました。まだカラーコピーが高価な時代で、残念ながら毎号カラー化はもっとずっと後のことになります。しばらく間があって、第二十七号は各スタッフのプロフィールや担当地域をまとめた別冊付録付で発行し、加盟店さまには好評でした。第二十九・三十号は合併号。越野泰弘社長の結婚と、第一回越野杯ゴルフコンペ開催の様子を伝えました。それから休刊時期が度々ありましたが、「ＤＩＳ通信」から「シャトル北大阪通信」に変わり、新聞自体も横型にリニューアル。第四十四号(１９９５)五月からはシャトル北大阪の広報広告委員会で新聞編集をすることになり、「シャトル北大阪通信Ｚ」と改名。(現在は元の名前に戻っています)この号から「小村のコラムこむら返り」という連載も始まりました。

百のちょうど半分の第五十号は１９９６年の四月に発行。シャトルに名前が変わって三年目の政策勉強会の様子などを伝えています。ニューエレガントマットが新登場し、販促キャンペーンを繰り広げながらの新聞製作でした。その他にも当時の老人ホームでのお掃除ボランティアや安全運転指導員基礎教養講座の受講など、本業のレンタル業務以外にも新聞には様々な出来事が詰まっています。創刊から百号までに二十年以上もかかった新聞ですが、思い出がいっぱいです。「シャトル北大阪通信」を今後も読んでくださるようヨロシクお願いします。

シンプルな印象の 51 号

イラストも当時のスタッフ作で、
マニュアル製作に使用したもの

シャトルのマイケル冗談ですよ！

シャトル北大阪の旧人類を紹介する人気のコーナー

その19

シャトル大阪中央店

俵積田　直典

シャトル大阪中央店で管理サヴマネジャーをさせていただいている俵積田です。たわらつみだ…変わった苗字だなと思われたでしょ？元々親が九州で、「俵積田」という地名やバス停も田舎にはあるんですよ。昭和四十九年五月七日生まれの三十九歳。四つ違いの兄との二人兄弟で、現在は高校時代の同級生だった妻と三人の子供たちと楽しく暮らしています。シャトル入社は平成九年三月で、今年十六年目になります。しかし若いときは建築関係の仕事を目指してアルバイトをしながら建築の専門学校に通い、卒業後は二十一歳で建築内装業の会社に就職しました。会社といっても五人だけの小さなクロス貼り職人です。入った当初は親方自身がまだ二十六歳ぐらいと若く、年齢が近すぎて逆に親方との関係がギクシャクしていたのを覚えています。三人兄弟プラスその親友で構成された会社に、まだ半人前の職人でしかない私が入ったのですから、なんとなく疎外感があったのは否めません。仕事は工務店の下請けが中心。ちょうど阪神大震災後の建築ラッシュの時期だったので毎日早朝から夜遅くまで働きました。マイカーを持たない私は高槻の自宅から神戸の現場近くの駅まで電車で行き、仲間の誰かに拾ってもらうという状況がしばらく続き、親方が見かねて車を買ってくれました。通勤や現場への足、プライベートにも使いました。おかげで一年半ほど経った頃には仕事ができる職人になっていました。しかしそんな状況の変化とは裏腹に入社した頃のような仕事に対する違和感をずっと持ち続けており、二年を過ぎたころには将来に悩みながら現場に向かうというようになっていきました。良くしていただいた親方なので、今も申し訳ない気持ちですが、ついに二年半で退職を決めました。最初に感じた親方への違和感は職人という仕事に対する違和感だったのかも知れません。妻もそんな私を見て気づいていたのか転職に反対はしませんでした。それから求人誌を見たりして転職先を探したのですが、シャトルの面接を受けたのは、単純にダスキンという名前に魅かれたからです。面接の印象も良かったので入りたいと思いましたが、「明日からでも来れますか」という問にはさすがに「ムリです」と答え、それから内装業の引継ぎを終えて数週間後に入社しました。シャトルの仕事は早朝から夜遅くまでたいへんでしたが、以前の仕事も同じような状況だったので、ぜんぜん苦にはなりませんでした。入社が私より三ヶ月ほど早かった石田祐一さんとは仲良くさせていただき、仕事にもすぐ慣れました。

そして十数年スタッフ、そしてチーフやサヴマネジャーとしてレンタルに関わった後、ちょうど一年ほど前に管理サヴマネジャーの辞令を受けました。しかし早々に思い知ったのは管理の仕事の怖さ。スタッフの入力ミスがとんでもない結果を生むということです。それだけにやりがいのある仕事だと言えるのですが、実は昨年、私のチェックが甘かったために、ある支店さまにご迷惑をお掛けしてしまいました。反省です。それまでのように主に男性スタッフを相手にするのとは違い、女性の事務スタッフとの仕事は初めてで、正直今でも気を使います。(汗)

練習風景

話は変わりますが、私は京都と大阪の境にある三島郡島本町(名水百選にも選ばれた美しい町です)の高校に通っていました。そのご縁で島本町のリクリエーション協会の中でバスケットボールチームのお世話をしています。バスケは学生時代から続けている私の大好きなスポーツで、私も町のクラブチームで時々試合に出場しています。ちなみに我が弱小チームは前回の高槻市長杯にも参加しましたが、残念ながら初戦敗退。トホホですが、リクリエーション協会のバスケを通して様々な友達もできました。お世話係をしているとコート使用などで優遇されますが、町の文化祭やお祭りなどがあれば率先してお手伝いに参加しなければなりません。自転車整理や案内係、そして先日はタコせん売りの屋台のオヤジに変身。これが案外バスケの試合並みに楽しく、思わずハマってしまったのには我ながら驚きでした。(笑)

島本町でおこなわれたバスケ大会の参加者。けっこう大人数でしょ

これからも大好きなバスケットボールを続け、レンタルから離れて運動不足のメタボになりそうなカラダを鍛えたいと思います。

去る四月十三日(土)、ダスキン誠心館飛翔の間において、第五十二期の㈱シャトル北大阪上半期政策勉強会がおこなわれた。今期も昨年に引き続きプロのレンタルは「smile & smart」を合言葉にプロのレンタル内容を徹底して守ることが確認され、スタッフ全員が同じ方向を向いてその力を結集し、より優れたシャトルに成長して新たな飛躍を遂げようという目標が示された。シャトルにしかできないこと。シャトルがしなければならないこと。シャトルだからできることを今年三十五周年を迎えるシャトル北大阪の歴史に恥じない知恵と工夫で実行し、日々前進を続けてまいります。

シャトル北大阪の今

現在のシャトル北大阪をより知っていただくため、数字情報を載せています。(大阪・神戸)

(4月度)

レンタル率(月間予定売上/月間実績売上)

大阪　99.7%

神戸　98.0%

解約率(基礎売上/総減少金額)

大阪　1.13%

神戸　1.18%

活動日数

21日

活動車両数

大阪　29台

神戸　15台

駐車場料金(大阪)

52万1,360円

(一日平均　2万4,826円)

駐禁状況(参考:前期は15件でした)

今期　3件(4月末現在)

Ameblo.jp/shuttle-ko/

シャトル北大阪ブログ

楽しい記事や最新のシャトル情報がいっぱいです。

是非アクセスしてください！

シャトル北大阪 上半期政策勉強会 社内委員会活動報告会